

ラオス人女兒退院

岡山医療センターで腎がん手術



看護師らに見送られ退院するナムソムちゃん親子。15日午後1時4分、岡山医療センター

科医長は「当初は低栄養状態で、感染症に注意しながらの治療だった。今は体重も増え、歩けるようになりひと安心」と報告。青山興司名誉院長は「きょうだいと一緒によく育ってほしい」と話した。

ナムソムちゃんは国際医療団体ジャパンハート（東京）の橋渡しで来日。昨年8月7日に腎臓の腫瘍（直径15センチ、約1・2キロ）を摘出する手術を受け、転移や再発を防ぐため放射線と抗がん剤治療を行った。最後の抗がん剤治療が12月下旬に終わり、1月上旬の検査結果は良好だった。

親子はこの日、東京へ移動。17日に出国し、18日には自宅に戻る予定。今後もジャパンハートがラオスでの定期検査など継続的に支援するという。

（伊丹友香）

主治医の中原康雄小児外

小児腎臓がんを患い、国立病院機構岡山医療センター（岡山市北区田益）で治療を受けていたラオス人女児ナムソム・ウォンウィラ（1歳）が順調に回復し15日、退院した。

院内で会見した母親のヨットさん（29）は「全ての人に感謝したい。非常にうれ